

◎ 高松市生涯学習事業の推進状況について

[1] 概要

高松市生涯学習事業の令和2年度の推進状況について、事業担当課で自己評価を行いました。

() 内は昨年度実績

基本目標	施策の基本方向	具体的な施策の展開	事業数	評価別 事業数				
				A	B	C	D	評価不可
IV 青少年の健全育成	1 子どもの体験活動の充実	(1) 放課後や週末の体験・交流活動の場づくり	28 (30)	3 (14)	4 (5)	13 (10)	7 (0)	1 (1)
	2 青少年の健全育成の推進	(1) 子どもが安心できる場所づくり	1 (1)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
		(2) 青少年の非行防止活動の推進	-	-	-	-	-	-
		(3) 情報モラル教育とネット・ゲーム依存対策の推進	1 (1)	0 (1)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)
V 家庭・地域の教育力の向上	1 学校・家庭・地域の連携強化	(1) 家庭・地域と一体となった学校の活性化	7 (7)	5 (6)	2 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	2 家庭及び地域の教育力向上の推進	(1) 家庭の教育力の向上	20 (21)	7 (8)	5 (8)	5 (4)	1 (0)	2 (1)
		(2) 地域の教育力の向上	3 (3)	1 (0)	0 (0)	1 (3)	1 (0)	0 (0)
VI 生涯学習の推進	1 学習機会の充実	(1) 多様なニーズに応じた学習機会の充実	68 (72)	14 (33)	8 (21)	29 (12)	13 (1)	4 (5)
		(2) 学習成果をいかせる環境づくり	13 (13)	0 (6)	2 (4)	10 (3)	1 (0)	0 (0)
	2 学習施設・機能の充実	(1) 学習施設・機能の充実	15 (15)	6 (9)	3 (4)	5 (2)	1 (0)	0 (0)
	施策体系にはないが、指標の設定がある事業 (*1)	-	3 (3)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	2 (2)
総 合 計			159 (166)	37 (78)	25 (44)	63 (34)	25 (1)	9 (9)

(*1) No.157 生涯学習をしている人の割合 (市民意識アンケート調査)
 No.158 ボランティア活動に参加した人の割合 (市民意識アンケート調査)
 No.159 図書館図書市民一人あたり貸出冊数 (年間)

★評価： A (前年度の実績を上回った。前年度実績の100%以上)
 B (概ね前年度の実績並である。前年度実績の80%以上100%未満)
 C (前年度の実績を下回った。前年度実績の80%未満)
 D (未着手、実施不可能、事業中止)

評価不可 (新型コロナウイルス感染症対策として、オンライン配信等に変更したことにより数値化できない場合を含む)

[2] 分析結果

新型コロナウイルス感染症の影響により、前年度実績を下回る C 及び D 評価となった事業が、昨年度の 35 事業から 88 事業に大幅に増加しました。

これは、外出自粛や施設の休館、感染症対策のための講座数や定員の削減に伴い、受講者数や来場者数が減少したことによるものです。

D 評価 25 事業は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、事業が中止となりました。

しかしながら、No.3「伝統的ものづくり夏休み親子体験教室」のように、外出自粛や夏休み短縮等の影響により参加者数は前年度を下回ったものの、参加者への満足度調査では、事業開始以来最も高い評価となった事業もあります。

また、No.6「親子文化財教室」では、感染防止対策として、定員を収容人数の 50%以下としましたが、2部制を取り入れたことで前年度並みの実績を保つことができ、No.9「子どものアトリエ事業」では、事業が中止になった場合の対策も兼ねて、5月から子ども向けの作品制作番組などを紹介する動画配信事業を継続しています。

引き続き、適切な感染防止対策を講じた上で、事業内容や実施方法について見直し・改善を行い、積極的な広報活動を図っていく必要があります。

また、次のように市民ニーズを踏まえた事業内容の充実や実施方法に工夫を凝らしたことで、前年度実績以上の成果につなげることができた事例もあります。

・No.56「不登校等に関するカウンセラーによる教育相談事業」では、年間8回の親の会のうち2回を夜会としたことで、参加者のニーズに応えることができました。

・No.144「資料館資料活用事業」では、新型コロナウイルス感染症の影響で出前トーク等の依頼はなかったものの、ロビー展示の回数を増やすことで、充実した資料活用に努めることができました。

[3] 今後の課題

令和2年度については、約8割の事業が新型コロナウイルス感染症の影響を受けましたが、オンライン開催など新たな方法で実施している事業もあります。

No.77「防災講演会」では、講師はリモート登壇、受講生は会場又はリモート視聴の選択制とし、参加者数の減少率を2割弱程度に抑えることができました。

また、No.135「まちかど漫遊帖事業」では、動画配信サービスを活用したまち歩きや、Webを使ったアンケート集計など新しい形の体制を整え、事業を実施しています。

令和3年度でも、更なる事業の中止、縮小が想定されますが、引き続き、「新しい生活様式」に沿った講座・事業の実施方法を検討し、市民の学びを継続していくことが大切であると思われます。